



TITLE:

題四星會天圖/ 題米子第三十五星團
圖

AUTHOR(S):

菟倉隱士

CITATION:

菟倉隱士. 題四星會天圖/ 題米子第三十五星團圖. 天界 1940, 20(231):
259-259

ISSUE DATE:

1940-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168036>

RIGHT:

エルズリは米國マサチュセツ州で、米國の文化圏内にあり、過去二三年來、戰亂を避けて目下歐洲より渡來してゐる天文學者も多いので、此の會合は恐らく賑はうことであらう。

○關西で、觀測など熱心にやつてゐた若い一會員が、近頃東京に引き移つたところ、或る方面から本協會の惡口を聞かされ、大に憤慨してゐるといふ通知があつた。由來、東京は(殊に學者仲間には)口の悪いのが澤山あるのであるし、東京天文臺員中には、先輩のなりして、後輩の京都や倉敷の天文臺(及び天文臺員)を指導する代りに、惡口雜言を常として、學界の進歩を妨げ、學術の品位を傷け、他人の研究を嫉妬する惡徳天文家が少なくないのであつて、十數年來、この種の腐り漢を、自分等は知つてゐるが、自分等は決して彼れ等の眞似をせず、惡口に報ゐるに惡口を以てしない方針を堅持してゐる始末である。しかし、純眞なる本會員中には、此の種の惡徳學者に始めて接して、驚かれる人もあらう。崇高なる天文學をやつてゐる人々でも、之れが職業となれば、忽ち墮落して、凡人以下の下劣輩になつて了ふものがあるものである。こんなものを相手としないだけの態度と勇氣とが必要である。

○妻が病氣で、入院中、自分は此頃殆んど京都を離れて、いなか暮らしをしてゐる。お蔭で、いなかの美しい星空に毎夜親しむことが出來て、幸ひである。それにつけても、近代の大都市といふものは、晝となく、夜となく、空の空氣を汚すこと甚だしく、單に之れは天文觀測者たちの觀望を妨げるといふのみに止らず、人の生活の健康性を妨げ、神經を鈍らせる意味に於いて、之れは現代の重大問題である。何とかして、もつと衛生的な環境に、人類は生活出來ないものか?! せめて、ニウヨーク市の如く、烟だけでも完全に放逐する社會を、我が國にも早く作りたいものである。(1940-6-12)

題四星會天圖

菟倉隆士

皇曆二千六百春。仰看天上四星親。
晴宵交歡議何事。似訝人間爭霸頻。

題米子第三十五星圖

燦彼羣星鏡裏姿。變宮西角鑲琉璃。
二千六百光程溯。想見神皇肇國時。

* 變座は双子座です。